

平成26年度事務事業評価シート		該当事業(評価対象外事業は基本情報のみ記載)		
		一般事務	公共建設事業	評価対象外事業
事務事業名	遺族会戦没者等援護事業			
予算科目	3 款 1 項 1 目			
総合計画での位置付け	福祉の向上と保健・医療の充実～やすらぎとぬくもりのまちづくり～ 福祉施策の向上と充実			
所管課情報	担当課:	福祉課	電話番号(内線):	526
記入者情報	所属長:	渡辺 悦子	担当責任者:	米湊 明弘
事業の性格	法定事務			
実施期間	【開始年度】平成 18 年度 【開始年度】設定なし			
事業の対象	遺族会他一般住民			
根拠法令等				
事業の目的	遺族会活動への補助事業・平和祈念式典の開催			
事業の内容	遺族会が行う遺族の福祉増進、遺族の生活相談に関する事業を補助する。平和祈念式典を開催する。			
改善策の 具体的 取り組み (当初)	第2次大戦終結から69年がたち、戦争体験者・遺族が高齢化しているため、活発な事業展開が困難になっている。このため、戦争体験を風化させずに 平和維持活動につなげていけるよう事業を推進に務めている。			
改善策の 具体的 取り組み	戦争体験者・遺族が高齢化しているため、活発な事業展開が困難になっている。このため、戦争体験を風化させずに平和維持活動につなげていけるよう、証言・ビデオなどを活用して事業を推進する必要がある。			

事業費及び財源内訳					
項 目		25年度決算	26年度予算	9月末の執行状況	26年度決算
事業費	直接事業費	1,868	0	0	1,963
	人件費	1,138	1,113	556	1,113
	合計	0	1,113	556	3,076
人件費 内訳	人工数	0.14	0.14	0.07	0.14
	人件費単価	8,135	7,954	7,954	7,954
	補助事業人件費	0	0	0	0
	人件費	1,138	1,113	556	1,113
財源内訳	国庫支出金	0	0	0	0
	県支出金	0	0	0	0
	地方債	0	0	0	0
	その他	0	0	0	0
	一般財源	3,006	1,113	556	3,076

事業活動の実績(活動指標)					
項目	単位	25年度実績	26年度予定	9月末の実績	26年度実績
遺族会補助金交付	千円	706	706	706	706
平和祈念式典開催	千円	1162	1528		1257

向こう5年間の直接事業費の推移						
年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	5年間の実績
	1,500	1,500	1,500	0	0	4,500

成果指標				
成果指標	平和祈念式典への一般参加者数			
指標設定の考え方	平和祈念式典の趣旨の浸透具合を測り、事業の改善に資する。			
区分年度	25年度	26年度	27年度	目標27年度
目標	400	400	0	0
実績	338	346	0	0

自己評価				
自己評価 (担当責任者)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	4	
		市の関与の妥当性	4	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	平和祈念式典への出席者数が、遺族会会員の高齢化並びに昨年から会場変更の影響もあり微増ではあるが、大きな変化は無かった。今後も、遺族の高齢化や会場等により平和祈念式典への出席者減少が懸念される。このため、一般への参加を呼びかけるとともに、例年参加していただいている小学生に対しては、引き続き送迎バスをもうけ、参加者減少の歯止めする必要がある。			

一次評価				
一次評価 (所属長)	妥当性	目的の妥当性	4	B
		市民ニーズへの対応	3	
		市の関与の妥当性	3	
	有効性	事業の効果	4	B
		成果向上の可能性	3	
		施策への貢献度	3	
	効率性	手段の最適性	4	B
		コスト効率	3	
		受益者負担の適正	3	
課題認識	戦後70年を迎えるにあたり、後世に戦争の悲惨さと平和の大切さを受け継ぐためにも必要な事業である。従軍された方が亡くなり、遺族関係者が高齢化するなか、今後も平和記念式典に参列し献花していただけるように事業を継続し、一般・児童・行政職員等戦争を知らない世代の者が、改めて、戦争とは…、平和とは…、と考える機会であってほしい。			

二次評価	
二次評価 (所属部長)	一次評価結果のとおり事業継続と判断する。
意見、課題	

行政評価委員会の答申

外部評価
(行政評価委員会)

経営者会議の最終判断

事業の方向性

現状のまま継続する。

意見、課題